

令和元年度 第2回 大阪府河川及び港湾の底質浄化審議会 議事要旨

日 時： 令和元年12月27日(金) 10:00～12:00

場 所： 災害対策本部会議室

出席者： 石垣委員(会長)・平田委員・貫上委員・島田委員・田中委員 計5名

まとめ：

- | |
|---|
| <p>■ダイオキシン類汚染底質対策後のモニタリング方法について
・覆砂対策実施後のモニタリング方法について了承された。</p> |
|---|

概 要： [以下、○委員 ●事務局]

(1) ダイオキシン類汚染底質対策後のモニタリング方法について

(神崎川下流エリア(猪名川合流点から河口まで)における河床掘削工事に伴うダイオキシン類汚染底質対策について)

- 治水工事により取り除いたものは安全に処分場で処理されるのか(貫上委員)
- そのとおりである。
- 98+50のところの対策について、治水工事全体の中で上流部に位置するため、通常とおり下流から施工すると対策が遅れることにならないか。(貫上委員)
- この部分については上流と同じように優先度を上げてやる必要あると考えている。
- 資料1-2なのですが、11と13+50の流心がないのはなぜか。(田中委員)
- 川幅が狭くなりますと、左岸側と右岸側でサンプリングすると流心に該当する部分がないということになる。
- 1/40の計画河床高がないところっていうのは、どういう理解をすればいいのか。(田中委員)
- 計画河床高がないところは、現況の河床高が計画河床高よりも低いところである。
- 河床高より低いところは、今回は対策は行わないのか。(田中委員)
- 治水事業のとしての対象にならないが、汚染が確認されている部分については、覆砂をやるなり対策は講じることになる。
- 浚渫した箇所については、絶対に計画河床にしなければいけないのか。計画河床よりも下にダイオキシンがあるが、1メートル掘ればもう汚染がない場合でも覆土対策することになるのか。(平田委員)
- その場合に関しては、費用対効果も含めて汚染部分を取りきるという方法も検討してまいりたい。
- 汚染部分を取りきった場合は、覆土はなしでよいのではないか。(平田委員)
- 平面的、縦断的につながりを考慮して、検討する必要があると考える。

- PCBが検出された箇所について、引き続き継続的に監視していくのか。（島田委員）
- そのとおりです。
- 川は、つながっているのだから、前後というか、近くのデータもきちっと押さえておいたほうがいい。（島田委員）
- わかりました
- 先ほどの98+50の左岸ですけれども、要対策地点には含めないのですか。（石垣会長）
- 黄色は、治水対策箇所です。1/40まで掘ったときに対策するという意味でございませう。98+50は、浄化対策として対策をします。
- 基本的に一番大事なのは河床面の高さです。表層、要は上流には汚染源がないということ前提に考えることとなる。調査のために採取したコアをきちっと残しとしてもらうということが重要である。もし、分析した結果何か変なことが起こっているのであれば、改めてそのコアの変化しているところで分析をし直してみるということも考えられる。（平田委員）
- 40センチ以上、覆砂が残っているのであれば毎年、何年間かやってみて、河床高が余り変わらないようであればモニタリングも終了すると。そういう理解でよろしいか。（平田委員）
- そのとおりである。
- 二つの河床高調査と適合層調査の頻度は年1回ずつという理解でよいか。（貫上委員）
- 年に1回程度と今考えている。
- 例えば年1回でというタイミングで定期的に時期を決めてされるというよりは、むしろ大きな出水があった直後とは言わないが、一月内ぐらいで調査をされるとか、そういう形のほうがいいのではないか。（貫上委員）
- 大きな出水があった場合は、調査時期等検討する。
- ある程度粒径で判断することはできないのか。（貫上委員）
- ダイオキシン調査では、ダイオキシン濃度そのものをもちろん分析するが、いわゆる粒度分布についても深さ方向に調査する。
- ダイオキシン類の調査には、かなり費用や期間がかかることになるので、それは定期的に行い、出水があったときにまずは河床高調査をし、そして洗掘するようなところがあったら粒径分布だけ調べるということもできるのではないか。（貫上委員）
- 1年目にダイオキシン濃度と粒形がまず分かるので、その後は例えばそういう方法も検討が必要と考えている。
- 最近の傾向でいうと、例えば1/40をちょっと超えるような出水があった後、またある可能性があるのだから、一つあった直後ってのはちょっと難しいと思われるので、出水期が終わってから、例えば11月とかのほうが無効的だと思われる。一度流れてきたものをまたかき乱すこととなるので、河川工学の面から言うとそのほうがいいかなと思

う。(石垣会長)

○年1回の測定は、いつごろにするのか。(島田委員)

●大体、出水期明けと考えているが、自然現象等も加味した調査の仕方を検討してまいりたい。

(2) 平成25年3月28日付け河環第1595号による諮問について

○それでは、今の説明に対して、御意見あるいは御質問がありますか。

よろしいですか。それではモニタリング方法は先ほど審議した内容と一緒にですので、これでということで、了承されたということにいたします。(石垣会長)

一般傍聴からの発言受付

発言なし